

武蔵野市の将来人口推計（平成 26 年～平成 57 年）について

1. 概要

本推計は、第五期長期計画・調整計画の策定にあたり、武蔵野市における総人口や年齢 3 区分別（年少・生産年齢・老年）人口、世帯数などを対象に、平成 26 年 1 月 1 日時点の実際の人口を基準とし、平成 57 年 1 月 1 日までの将来推計を実施したものである。

2. 対象項目

- 総人口（日本人及び外国人人口）
- 日本人人口
- 外国人人口
- 昼間人口
- 町丁目別人口
- 世帯数

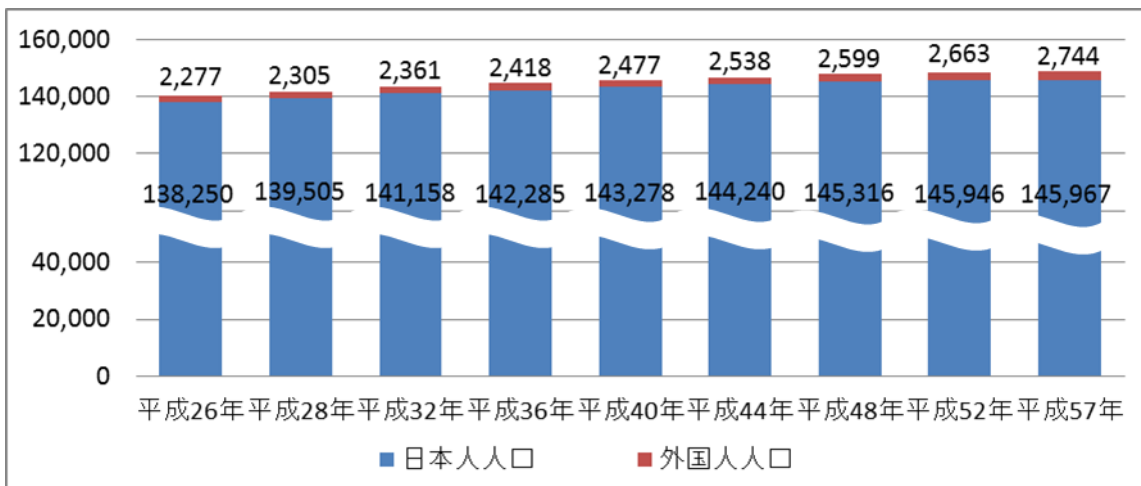
3. 推計結果

基準年次の平成 26（2014）年で 140,527 人の総人口は、近年の大規模開発による人口流入の波及効果によって、当面は横ばいから微増で推移することが見込まれる。（図表 1）

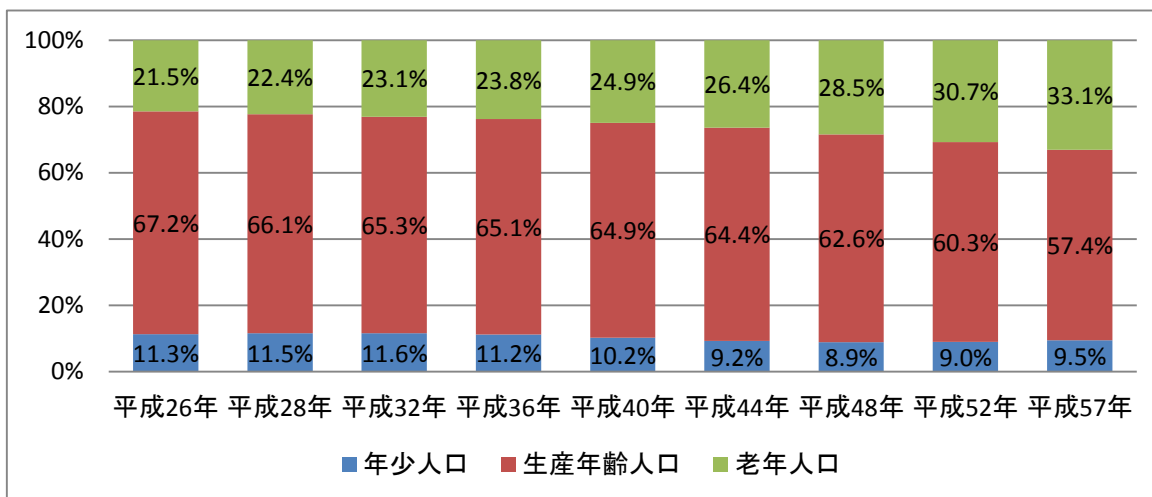
この総人口の内訳を年齢 3 区分別人口で見ると、老年人口は増加傾向が続き、現在 21.5%の老年人口比率（高齢化率）は、平成 57（2045）年には 33.1%に達すると見込まれる。一方、年少人口は、大規模開発の波及で出生者が増加していることを背景に、現在の 11.3%から当面微増した後、平成 49（2037）年には 8.9%まで低下する。その後、現在の出生者が 20 歳代後半を迎えて再度上昇に転じ、平成 57（2045）年には 9.5%まで回復すると見込まれる。また生産年齢人口は、微減微増を経ながらも期間全体を通じては漸減傾向にあり現在の 67.2%から平成 57（2045）年には 57.4%まで低下すると見込まれる。（図表 2）

前回（平成 22 年）推計との相違としては、総人口のピークの見込みが平成 30 年から平成 55 年と大きくずれたことは大きな違いであるが、年少人口と生産年齢人口の減少、老年人口の大幅な増加という傾向に変化はなかった。（図表 3）

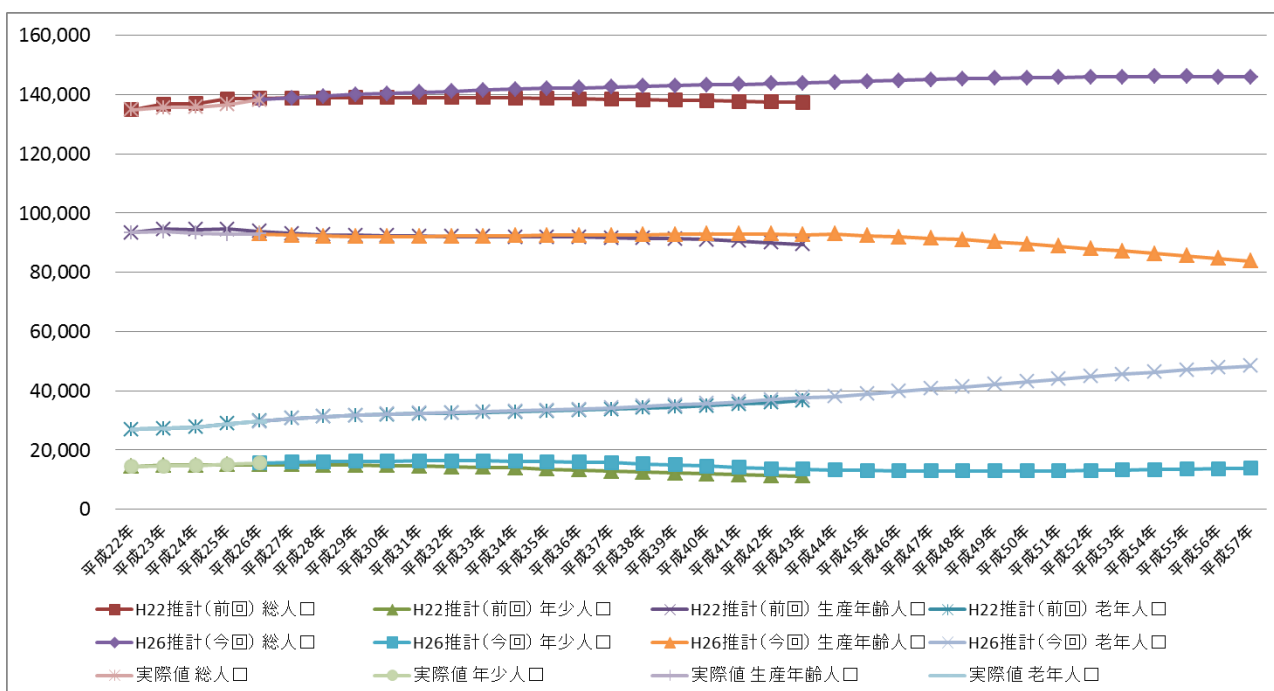
【図表 1 将来人口（総人口）】



【図表 2 日本人の将来年齢 3 区分人口比率】



【図表 3 平成 22～26 年人口実績値・平成 22 年推計・平成 26 年推計の比較】



担当課：総合政策部企画調整課